

## 国語科「読むこと」の授業づくり

### 1 国語科教育に求められるもの

国語科 については、(中略) 国語に対する関心を高め、国語を尊重する態度を育てるとともに、実生活で生きてはたらし、各教科等の学習の基本ともなる国語の能力を身に付けること、我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てることに重点を置いて内容の改善を図る。  
「中央教育審議会答申」平成 20 年 1 月 17 日



#### 【国語科の目標】

国語を適切に表現し正確に理解する能力を育成し、伝え合う力を高めるとともに、思考力や想像力及び言語感覚を養い、国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる。

「小学校学習指導要領解説国語編」平成 20 年 8 月

#### 伝え合う力

人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重し、言語を通して適切に表現したり正確に理解したりする能力

#### 適切に表現する能力

- 国語を適切に使う能力
- 国語を使って内容や事柄を適切に表現する能力

高める



#### 正確に理解する能力

- 国語の使い方を正確に理解する能力
- 国語で表現された内容や事柄を正確に理解する能力

#### 思考力

- 言語を手掛かりとしながら論理的に思考する力

認識力や判断力などと密接に関わりながら

#### 想像力

- 豊かに想像する力

新たな発想や思考を創造する原動力

#### 言語感覚

- 言語の使い方の、正誤・適否・美醜などについての感覚のこと

#### 国語に対する関心を深め国語を尊重する態度を育てる

- 国語に対する自覚と関心を高め、その特質や機能についての理解を深めさせることによって、国語の習得を一層確実にすることができる

### 2 読むこと

	第 1 学年及び第 2 学年	第 3 学年及び第 4 学年	第 5 学年及び第 6 学年
読むこと	(3) 書かれている事柄の順序や場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、楽しんで読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。	(3) 目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身に付けさせるとともに、読書を通して考えを広げたりしようとする態度を育てる。

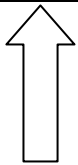
(1) 説明的な文章の解釈に関すること

【文章の解釈（指導事項イ）】

文章の解釈とは、本や文章に書かれた内容を理解し意味付けることである。具体的には、今までの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読んでいく。文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、読み手は自分の目的や意図に応じて考えをまとめたり深めたりしていくことである。

【「説明的な文章の解釈」についての指導事項】

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
時間的な順序や事柄の順序などを考えながら内容の <u>大</u> 体を読むこと。	目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと。	目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながら読んだりすること。



時間の順序や事柄の順序とは（例：事物の作り方の手順など。）  
文章に取り上げられた話題自体に内在する事柄の順序  
どのように文章を構成しているかという文章表現上の順序など。

言語活動をとおして指導

（言語活動例）

- ・ 物語や、科学的なことについて書いた本や文章を読んで、感想を書くこと。
- ・ 読んだ本について、好きなところを紹介すること。

(2) 本時の学習から

本時（単元の導入）：単元のまとめ **「さけが大きくなるまで」のパンフレット作り**

時間の順序や事柄の順序（時や場所、さけの様子を表す言葉）を考える

どこで生まれるか 川ぞこ **どのようにして大きくなるか** 秋になるころ、冬の間、春になるころ

【音読に関する指導事項】

音  
読

- ・ 自分が理解しているかどうかを確かめたり深めたりする働き
- ・ 他の児童が理解するのを助ける働き

基礎となること

- 語のまとまりや言葉の響きなどに気を付けて音読する。
- ・ 明瞭な発音で文章を読むこと
- ・ ひとまとまりの語や文として読むこと
- ・ 言葉の響きやリズムなどに注意して読むこと

【参考文献・資料】

- ・ 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について(答申)」(中央教育審議会 平成 20.1.17)
- ・ 小学校学習指導要領解説 国語編 (文部科学省 平成 20.8)
- ・ 評価規準の作成、方法等の工夫改善のための参考資料【小学校 国語】(国立教育政策研究所 平成 23.11)
- ・ 適正で信頼される評価の推進に向けて (東京都教育庁指導部 平成 24.3)

## (1) 音読・朗読について

## ○音読

音読では、書き手の意図を考え自分の思いや考えと合わせて音声化していく必要がある。特に物語や詩では、書き手が語り手を設定したり、登場人物を設定したりしているので、その語り手やそれぞれの登場人物などの人物像も明確にし、どのように語りたのかを決める必要がある。その上で、今まで学習してきた、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読させるようにする。

## ○朗読

朗読は、読者として自分が思ったことや考えたことから対象としている文章の全体的なイメージを明確にし、そのことを相手に分かってもらうように伝えようとして音声化するものである。音読が、文章の内容や表現をよく理解し伝えることに重点があるのに対して、朗読は、児童一人一人が自分なりに解釈したことや、感心や感動をしたことなどを、文章全体に対する思いや考えとしてまとめ、表現性を高めて伝えることに重点がある。同じ文章を読んでも、一人一人の感じ方や思い、考えなどが違うことを大事にするとともに、どのように音声化すれば聞き手にもよく味わってもらえるのかなどを考えながら相互に朗読し合って楽しむことを重視する。

児童や学級の実態に応じて、音読や朗読の方法を考えたり、取り入れる場面を工夫したりするようにする。音読や朗読の発表会をしたり、更に表現性や創造性を高め、朗読劇や群読を行ったりするほか、身体的な表現なども交えた劇のような音読の活動なども考えられる。なお、このような発表会では、文章の内容や表現に戻って繰り返し読み、十分理解することに留意することが重要である。

## (2) 文学的な文章の解釈（本時の指導から）

【文章の解釈（指導事項ウ）】\*説明的な文章及び文学的な文章ともに共通

文章の解釈とは、本や文章に書かれた内容を理解し意味付けることである。具体的には、今までの読書経験や体験などを踏まえ、内容や表現を、想像、分析、比較、対照、推論などによって相互に関連付けて読んでいく。文章の内容や構造を理解したり、その文章の特徴を把握したり、書き手の意図を推論したりしながら、読み手は自分の目的や意図に応じて考えをまとったり深めたりしていくことである。

## 【「文学的な文章の解釈」についての指導事項の系統】

第1学年及び第2学年	第3学年及び第4学年	第5学年及び第6学年
場面の様子について、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読むこと。	場面の移り変わりに注意しながら、登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと。	<u>登場人物の相互関係や心情、場面についての描写</u> をとらえ、優れた叙述について自分の考えをまとめること。

## 〈振り返り〉

・前時を振り返る。  
〈話の流れ気持ちの変化・朗読の工夫〉

## 〈自分の考えをまとめながら読む〉

・大造じいさんの心情が表れている箇所にサイドラインを引く。  
・大造じいさんの思いや行動の理由を考える。

## 〈朗読の工夫を考える〉

・前時を振り返る。〈話の流れを想起、気持ちの変化〉

## 〈朗読の工夫の発表〉

・自分の工夫と他の児童の工夫の違いを感じる。

## (3) 学習活動の工夫

- ・朗読（単元を貫く言語活動）のために読む。
- ・前時までの学習を生かす。
- ・考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりする。